

龍谷大学経営学部同窓会様

2014年5月4日

B110195 佐藤日向

奨学助成金中間報告書

・はじめに

今回の奨学助成金を頂いた理由である税理士試験が2015年の8月に行われること、結果が12月に発表されることから、中間報告書を提出させていただきます。最終報告書に関しては12月の結果が届き次第報告させていただきます。

・中間報告

現在、専門学校では9月からの基礎、応用の知識のインプット期間が終了し、アウトプットの練習として、実力判定模擬試験等のテスト期間に入ろうとしています。簿記論では基礎期に試験上重要な基礎項目を幅広く学習し、個別問題、総合問題の基本的な解法を勉強しました。応用期には本試験に向けた実践的な知識の習得、本試験に近い総合問題の対応の仕方を学びました。財務諸表論では簿記論でのこれらの学習に加え、理論の解答テクニックや問題を読み取り方、知識のアウトプットの方法を学びました。そして基礎期、応用期の各期に4回ずつあるテストを受け、学んだことがどれだけ身に付いたか、理解できているかの確認を行いました。テストの成績は簿記論では上位10%を保ちました。また、先生に特別問題を用意してもらい、範囲を網羅的にカバーできるように勉強してきました。そして財務諸表論では一時は50%まで落ちましたが、10~30%台を行き来している状態です。特に理論を覚える作業に苦戦したことが成績を伸ばせなかったことの原因であると考えています。今後はテストを通して、理論を重点的に学習していく予定です。このようにテストがあり、自分が全国でどの順位にいるのかが分かるのでモチベーションを保ちながら勉強することができました。合格に向け、

何が足りないのか、何を重点的に勉強すればよいのか、どのようなところで自分がミスをしているのかを学ぶことができました。

また、税理士の勉強だけで学業がおろそかにならないように学業の方も力を入れて勉強しました。3年の後期で卒業単位を満たすように単位を取得し、ゼミ活動として学内発表や関西大会にも出場しました。

勉強をしている中でつらいこともたくさんあります。特に理論を暗記するというこれまでとは違う勉強に戸惑い、成績が落ちた時などとても落ち込みましたが、税理士になりたい、もっと会計を勉強したい、そして何より多くの人に支えられて勉強することができているということが背中を押してくれ、頑張り続けることができました。この奨学助成金の存在も背中を押してくれた大きな一因です。お金を出していただいたこと、皆さんから頑張れと言っていただけのこと、その嬉しさや使命感はとても大きなものでした。理論を暗記することは苦手ですが、理論を勉強することで今の会計がどのような歴史を経て成り立っているのか、そして一つ一つの会計処理にどのような意味があるのかが解りだし、勉強することの楽しみを見出すことができました。

面接時にいったん一般業界に就職してから、税理士になると申しましたが、税理士業界に就職することを決めました。一般就職のメリットが見いだせなくなったこと、やはり税理士として働きたいという思いが強くなったことが原因です。前までは一般就職することで社会経験を身につけ、それが強みになるのではないだろうかと考えていました。しかし、実際に就職活動を進めていくうえで強みになるような経験になるのだろうか、税理士業界に就職する以上の強みになるのだろうかと思いだしました。周りからは一般就職をするならば新卒という立場が最も有利であり、税理士にならない道も見てみた方がいいと言われましたが、やはり私の中では今の会計の知識を生かして社会に貢献したいという思いが強く、それができるのは税理士の仕事なのではないかという気持ちがより強くなっていま

した。また、専門学校や大学の先生方に佐藤なら今から税理士業界に入った方がいい、入ってもやっていけるなどと背中を押していただいたことも覚悟ができた要因です。

これから応用期に入り、毎週テストを受け続けることになります。上手く結果が出ずに悩み、苦しい時期もあるとは思いますが、その時には、この奨学助成金のこと、出してくださった皆さんの思い、周りの助けてくれている家族や友人、先生のこと、今までの努力を思い出し、精一杯頑張って乗り越えていきたいと思えます。残り3カ月ですが、特に簿記論では今の現状に満足することなく、財務諸表論では苦手分野である理論を中心に悔いのない勉強していきたいと思えます。そして試験で合格を勝ち取り、皆さんに良い報告ができるよう力を尽くします。それまで報告をお待たせすることになりますが、宜しくお願いします。